

2026年度 C日程

国語

(試験時間 60 分)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 問題は〔Ⅰ〕〔Ⅱ〕〔Ⅲ〕の3題あります。
受験者は、問題〔Ⅰ〕を解答しなさい。
そのうえで、問題〔Ⅱ〕〔Ⅲ〕のいずれか一つを選んで解答しなさい。
3. この問題冊子は、12 ページあります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページ落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等
気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. 解答用紙が1枚およびメモ用紙が1枚あります。
解答用紙には、選択する問題に○、選択しない問題に×をつけなさい。
5. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

〔I〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

食後の散らかったテーブルとか、ベランダのクッションがやぶけた椅子^{いす}とか、階段^①の下に置いてある荷物置き^アの台とか、そんなもののあいだにすつとなじんで、そのまま同じ風景になっていた父。何種類あるのかわからないグレーの背広^アを着て、朝八時きっかりに家を出、駅^②へ向かう人々の中にすぐにまぎれてしまう父。

今でも、父という人間は、決してあのなんとかアルプスのようにくつきりとした形では、見えない。

「これはかけらだな」

父が出し抜けに言った。

「え、何？」

「これは、かけらだ」

「これって何」

「今、見ているものとか、ここにあるもの全部。お父さん。桐子。あの鐘。全部。これがお父さんの主張」

かけらとは、青木金物店^③の看板^④とか、道に転がった空き缶^⑤とか、山の切れ端^④だと、わたしは思った。でも、父の言うとおりに今見ているもの、ここにあるものの全部が何かのかけらだとすれば、その何かとはどんな形をしていて、どれほどの大きさをしたものなのか。

「そうですか」

^c わたしはバスに帰ろうと立ち上がった。背後で父が、「写真、撮らなくていいのか」と言っているのが聞こえた。

帰りの高速道路はひどいジュウタイ^あで、タイクツ^いしのぎに寝て過ごすしかなかった。ただ、いくら目を閉じて窓枠に頭をもた

せかけても、[※]ビーナスラインでよっぽど^うジユクスイしたらしく、眠ることができなかった。さつきまで後ろの女子大生たちはさんざん文句を言っていたのに、今ではすっかり寝静まっている。父は彼女たちよりずっと前に寝ていた。色白の父の手は、貧相な体つきと歳のわりにはふつくらしていて、しわのよった半ズボンの^イ脇に半分上向きになって放り出されていた。

新宿駅が近づいてくると、父はひとりで目を覚ました。今度はわたしが目をつむって、寝ているふりをした。

^d今日は暑かったなあ、とつぶやくのが聞こえる。そうだね、と答えそうになる。

家に帰ると、[※]鞠子ちゃんはまだ寝込んでいて、母は夕飯を作るのに忙しく、兄は居間のソファでパソコン雑誌を広げていた。

帰りのサービスエリアで買った『雷鳥の里』を手渡すと、「おお、ありがとう」と言いつて雑誌を読みながら^fがつがつ食べ始めた。

「鞠子ちゃんは」

「なんか、熱はさがったんだけど、まだちょっと苦しそうなんだよな」

「そんなの読んでいいの」

「ずっと横にいてじいっと見つめてたって、子どもは元気にならないんだよ」

「お母さん、[※]りかさんに言うと思うよ」

「お前、おとな気ないな。^gそんなに一緒に来てほしかったのか？」

「お父さんと二人は難しいよ。心底」

兄は本から目を上げて、^h珍しい虫でも見るような表情でわたしを見つめた。包み紙に描かれた雷鳥がもう五、六羽、パッチワークのソファカバーの上に落ちている。

「桐子、お父さんに難しさを感じたのか？ お父さんはむしろ簡単だぞ」

「だってぜんぜん^{しん}芯がないんだもん。気骨^ウとか、^エ覇気とか、ぜんぜん」

「お前、そういうのを求めてたのか」

部屋着に着替えた父が居間に入ってきて、乾いた足音をさせてわたしたちの横を通り、台所に抜けて行った。

「求めてなかった」

答えると、兄はすぐさま興味を失って、雑誌に目を落とした。母が夕飯の手伝いをするようわたしと兄の名前を呼んだ。

結局その日の写真を現像に出したのは、三週間以上もたってからのことだった。さくらんぼ狩りの翌週から梅雨に入ったせい
か、わたしはなんとなく外出がおっくうになってしまつて、カメラケースごと部屋のテレビ台の上にうつちやつておいたのだった。写真教室では、これまでに撮った写真の中から数枚を適当に選んで、提出した。それは雑誌のコンテストに応募されること
になつていて、結果は二ヶ月後に発表ということだったけれども、わたしは早々に期待するのをやめた。

梅雨もそろそろ明けそうな今日になつてやつと、夕方のアルバイトが終わつたあとで、近くの電器屋に現像に出した写真を受
け取りに行った。自転車ですわっていると、昼過ぎまで降り続いてた雨のせいで、いつもより柔らかなアスファルトのカンショ
クがペダル足の裏につたわつた。道の白線はときどき光つて見えた。

店を出てからすぐ、駐輪場の自販機の横で受け取つた写真にばらばら目を通してみたけれど、どれもこれも似たようなアング
ルでぱつとしない。「自然」とか「日本の美」とか、あたりさわりのないタイトルならなんでも似合いそうな平凡な写真ばかりだ
つた。それでも何か美点を見つければいいかと、わたしは自販機によりかかり、今度は一枚一枚をじっくりと眺めた。バス
の中から撮つたぶれた写真、そば畑の写真、その向こうの山並み、さくらんぼを食べる人たち、あぜ道、丘から見た霧ヶ峰……
切り取られて、音も匂いも失つた風景たち。

疲れと失望を感じ始めた三順目で、そば畑からさくらんぼ園を写したうちの一枚に、中年の女たちに混じつて父の横顔が小さ
く写っているのを見つけた。撮つたときには全然気づかなかつた。

右奥の木の下に立っている父は、さくらんぼを欲しがらるおばさん連中に囲まれながら、不思議とそこに写っている誰のことも
見ていないようだった。顔は少し上向きで、口が半開きになつていて、表情は読みとれないけれど、その横顔はやっぱ父だつ

た。

どこを見るでもなく何を言うでもなく、ただ空間に向けられた視線が、写真の中を斜めに突っ切っている。

じっと見ていると、わたしは昔からちゃんと父を知っていたという気がしたし、同時に、写真の中の人はまったくの見知らぬ人であるようにも感じた。もたれた肩から伝わってくる自販機の熱とかすかな振動は、どこまでも続く沈黙に守られたその風景を散りぢりにしてしまいそうで、わたしは体をまっすぐにした。

父の視線は写真をはみ出して、雲の切れ目に薄い色の星が浮かぶ東の空に向かっていている。

（青山七恵『かけら』による、一部改変）

※ ビーナスライン——長野県にある観光山岳道路。

※ 鞠子——兄の子。

※ りか子——兄の妻で、鞠子の母親。

問一 傍線部あゝえのカタカナを漢字に直せ。

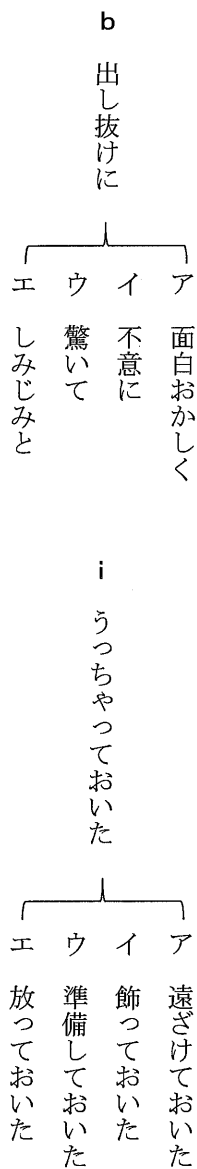
問二 傍線部アゝエの漢字の読みを平仮名で書け。

問三 破線部①ゝ⑤の「の」のうち、一つだけ働きの異なるものがある。それを選べ。

問四 傍線部 a 「決してあのなんとかアルプスのようにくつきりとした形では、見えない」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアゝオのうちから一つ選べ。

- ア 自分を隠そうとしているということ。
- イ これといった特徴がないということ。
- ウ 生活の面でだらしないということ。
- エ 一緒にいた時間が少ないということ。
- オ 真面目そうには思えないということ。

問五 傍線部 b 「出し抜けに」、傍線部 i 「うっちゃっておいた」を言い換えたものとして最も適当なものを、次のアゝエのうちからそれぞれ一つ選べ。



問六 傍線部 c 「わたしはバスに戻ろうと立ち上がった」とあるが、その理由として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

ア 父の主張がよく理解できず、父との会話を断ち切るため。

イ 父の主張に納得がいかず、父と別の話をするため。

ウ 父の主張がよくわからず、一人で写真を撮りに行くため。

エ 父の主張の正しさに驚き、その驚きを誰かに伝えるため。

オ 父の主張を正しいと思い、続きをバスの中で聞くため。

問七 傍線部 d 「今日は暑かったなあ、とつぶやくのが聞こえる」とあるが、このときの父について述べたものとして最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

ア さくらんぼ狩りに連れて行かれたことが不意だったため、わたしに文句を言っている。

イ 何かと反抗的なわたしの態度に対する不快感を、ごまかそうと、独り言を言っている。

ウ 暑さでなかなか眠れないので、わたしにその不快さを理解してほしいと思っている。

エ わたしと思ひ出を共有したいと思ひながらも、伝わらなくてもかまわないと思っている。

オ 家で寝込んでいる鞠子のことが心配なので、できるだけ早く帰りたいと思っている。

問八 傍線部 f 「がつがつ食べ始めた」とあるが、兄がどれくらい食べたかが読み取れる一文を抜き出し、最初の五文字を書け。

(句読点も字数に含めること。)

問九 傍線部 g 「そんなに一緒に来てほしかったのか？」とあるが、なぜ兄は「わたし」にこのように言ったのか。その理由として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

ア 鞆子をさくらんぼ狩りに連れて来なかったことに「わたし」が腹を立てていると気づいたから。
イ りか子との面談に理由をつけて行かなかったことを「わたし」が非難していると気づいたから。
ウ 「わたし」の通院について行かなかったことを「わたし」が悲しんでいると気づいたから。
エ 母の手伝いをしっかりしていなかったことを「わたし」が不愉快に思っていると気づいたから。
オ 父と二人でさくらんぼ狩りに行かされたことを「わたし」が不満に思っていると気づいたから。

問十 傍線部 h 「珍しい虫でも見るような表情でわたしを見つめた」とあるが、兄がこのような行動をした理由として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

ア 「わたし」の発言を父に聞かれていないかと不安に感じたから。
イ 父への理解が深い「わたし」の発言が気味悪かったから。
ウ 父に対する「わたし」の素直な気持ちが聞けて嬉しかったから。
エ 父のことを難しいという「わたし」の発言に驚いたから。
オ 父を理解していない「わたし」の発言に怒りを感じたから。

問十一 傍線部 k 「どこまでも続く沈黙に守られたその風景」とあるが、これはどの写真のものか。本文から二十五字以内で抜き出して、解答欄に合う形で書け。（句読点も字数に含めること。）

問十二 傍線部「わたしは体をまっすぐにした」とあるが、ここに見られるわたしの気持ちの変化を、五〇字以上六〇字以内で説明せよ。(句読点も字数に含めること。)

問十三 本文の内容を説明したものとして適当なものを、次のア～キのうちから三つ選べ。

ア 父はすべてのものが「かけら」であると思う一方、「わたし」は何かの一部分が「かけら」だと思っていた。

イ 「わたし」が「かけら」だと思っていたものと、父が「かけら」だと思っているものはほぼ同じである。

ウ 「わたし」はさくらんぼ狩りに二人で行くほど父と仲が良く、帰りのバスでも会話が弾んでいた。

エ さくらんぼ狩りから帰った後に「わたし」は兄と会話をしたが、両者の意見は合わなかった。

オ さくらんぼ狩りから帰った後の兄との会話によって、「わたし」は父へのあたたかい気持ちに気づいた。

カ さくらんぼ狩りの写真に小さく写った父を見て、「わたし」はその存在感のなさに悲しくなった。

キ さくらんぼ狩りの写真に写る父を見て、「わたし」は父という人間を再発見することができた。

問十四 傍線部 e『雷鳥の里』は長野県の菓子であるが、長野県を舞台とする『風立ちぬ』の作者として適当な人物を次のア～オのうちから一つ選べ。

ア 萩原朔太郎

イ 島崎藤村

ウ 水上勉

エ 室生犀星

オ 堀辰雄

〔Ⅱ〕

〔Ⅰ〕の文章について、後の問いに答えよ。

問一 傍線部 i 「わたしは昔からちゃんと父を知っていたという気がしたし、同時に、写真の中の人はまったくの見知らぬ人で

あるようにも感じた」とあるが、自分が知っている人を一人挙げて、〈新しく気づいたことだと思ったら実は以前から知っていたことだった〉という体験について三〇〇字以内で述べよ。(句読点も字数に含めること。)

〔Ⅲ〕 次の文章は、『枕草子』の作者について述べたものである。後の問いに答えよ。

その『枕草子』こそ、心のほど見えて、いとをかしうはべれ。さばかりをかしくも、あはれにも、いみじくも、めでたくもあることども、残らず書き記したる中に、宮^{なか}の、めでたく、盛りに、時めかせたまひしことばかりを、身の毛も立つばかり書き出でて、^c関白殿失せさせたまひ、[※]内大臣流されたまひなどせしほどの衰へ^{おとろ}をば、かけても言ひ出でぬほどのいみじき心ばせなりけむ^b人の、はかばかしきよすがなどもなかりけるにや、^a乳母の子なりける者に具して、遥かなる田舎にまかりて住みけるに、^d襖^{あわ}などいふもの干しに、外に出づとて、『昔の直衣姿こそ忘れね』と独りごちけるを、見はべりければ、あやしの衣着て、[※]つづりといふもの帽子にしてはべりけるこそ、いと（あはれなり）。まことに、^eいかに昔恋しかりけむ^f。

（『無名草子』による、一部改変）

※ 宮——皇后定子。

※ 関白殿——定子の父、道隆。

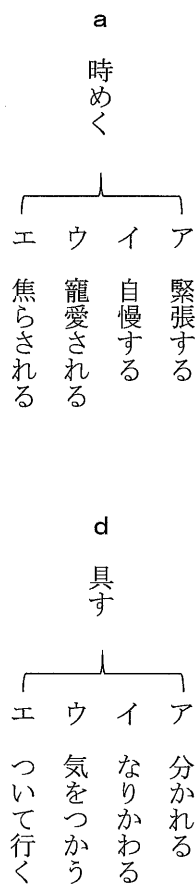
※ 内大臣——定子の兄、伊周。

※ 襖——上に着る裏地のついた衣。

※ つづり——粗末な布。

問一 傍線部ア、イの漢字の読みを、平仮名で書け。（アについては、「うば」以外を答えること。イについては、歴史的仮名遣い、現代仮名遣いのどちらでもよい。）

問二 傍線部 a「時めか」、傍線部 d「具し」のここでの意味として最も適當なものを、次のア～エのうちからそれぞれ一つ選べ。



問三 傍線部 b「いみじき心ばせなりけむ人」とは『枕草子』の作者を指すが、ここではどのような人物として捉えられているか、最も適當なものを次のア～エのうちから一つ選べ。

- ア 氣位の高い人
- イ 氣が弱い人
- ウ 朗らかな人
- エ 遠慮がちな人
- オ 我慢強い人

問四 傍線部 c「はかばかしきよすがなどもなかりけるにや」の意味として最も適當なものを、次のア～エのうちから一つ選べ。

- ア 頼みになる縁者などもなかったのであろうか
- イ まともな計画などもなかったのであろうか

ウ 邪魔になる人もどうやらいたのであろうか
エ 身を立てる才覚などがあつたせいだろうか
オ 頼りになる人がいないわけではなかったたので

問五 傍線部 e (あはれなり) を本文に合うように活用させて書け。

問六 傍線部 f 「いかに昔恋しかりけむ」を現代語訳せよ。

問七 『枕草子』の作者を漢字で書け。

二〇二六年度 一般選抜入試 前期C日程 メモ用紙

国 語

受験番号

--	--	--	--	--	--